

第 62 回日本生殖医学会学術講演会が、11 月 15 日・16 日の 2 日間にわたり、海峡メッセ下関・ドリームシップにて開催されました。

当院から、院長、培養士 2 名が参加し、1 演題ポスター発表をしました。

今回の学会では子宮内膜に関連する発表が特に多かったように感じました。技術の進歩により、今まで調べることが出来なかった子宮内の細菌も同定できるようになり、その細菌が子宮内膜炎に関係していることがわかり、その細菌を除去できる可能性がある抗生物質を見つけたという発表も見られました。これは内膜症が原因で反復着床不全の方にとって、希望をもてる報告でした。

タイムラプスについての報告もあり、当院独自で行っているタイムラプスの解析方法が如何に優れているかを再認識することもできました。今後も症例数を増やし、さらに精度を上げた解析技術を提供できるように邁進いたします。

発表テーマ

『ICSI 時卵膜伸展不良でも穿刺方法で変性率は減らせる』

ICSI(顕微授精)時に精子を吸引したピペットを卵子の膜に穿刺する(刺す)際に卵子の細胞膜がすぐに破れない(細胞膜の質が良い)所を探して刺すことにより、ICSI 時および ICSI 直後に死んでしまう(変性)胚を減らすことができるという報告です。変性胚が減り、受精卵が増えることにより、良好胚が得られる確率の上昇につながります。